

緊急
連載

2014ブラジル W杯異聞 ③

クイアパでの第3戦、コロンビア戦も日本は、持ち味を出せないまま、後半、コロンビアに手玉にとられるように、ゴールを連発され、1-4の大敗。

故障者もなく、大会前、相当な自信をにじませていただけに、2敗1引き分けの結果には、サポーターもがっかりだ。

第2戦が行われたナタルからクイアパまでは、ざっと 2,500 キロ。一縷の望みを託して、東京からグアムにまで飛んだに等しいけれど、無様な試合に体もぐったり。万一、決勝トーナメントに進出すれば、C組2位の会場は再びレシフェ。このため、たくさんの日本人サポーターがレシフェやナタル周辺に頑張って見守った。

なかでも、人気の「パブリック・ビューアー」が、レシフェ空港内の仮眠コーナー。この施設は、空港当局がサポーターの便宜を図ってこしらえたもの。ワールドカップで宿泊費はバカ高値。粗末な固いベッドのドミトリ（相部屋）に5人も6人も詰め込まれて、宿泊費 10,000 円という宿も多い。試合日が近づくにつれ、価格は急上昇するから、どんな宿かもわからず、予約しておく以外にない。その点、この空港施設は無料である。

ソファベッドあり、Wi-Fi あり、電源、主要航空会社の自動チェックイン機、ATMがあり、スタッフ 10 人が常に待機、警備員が 24 時間入口に立ち、監視カメラも多数設置されている。

すぐ表はレストラン。テレビも大画面で、へたな宿より、ここで「生活」した方がいいと 4、5 日滞在する者もいた。シャワーがないだけが欠点。

レシフェ入りした若者の中には、街に出るのが怖く、予約していたホテルを蹴って仮眠した組も多い。置き引きにあった若者もいたが、そこは、自己責任でしかない。外国では除あらばやられる。

イケメンのK君（25 歳）は、この女性スタッフに大モテだった。すらっとして色白だけに、積極的なメニーナ（女の子）にモーションかけられればなし。ついには、女性スタッフ 10 数人中、一番美人のS嬢と親しくなり、彼女の自宅で一緒に暮らし、果ては結婚まで考え出したというから、とんだW杯異聞である。

結局、期待の香川や長友も弾けず、ザッケローニ監督は辞任の最悪の結末となった。

日本が敗れて多くのサポーターはブラジル応援組に化した。ここがブラジル戦ともなると、ブラジル人サポーターもまじってスタジアムに負けないぐらいのど迫力応援。決勝トーナメント1回戦チリ戦でも、ネイマール人気はすさまじく、ボールが足元に流れただけで、メニーナの黄色い絶叫が響き渡った。街中の応援グッズ店も真っ黄色だ。

ブラジルは豊穡の国である。ここには飢餓はない。街の果物屋がその証だ。ホテルの朝食ジュースも少なくとも 3 種類の天然ジュースが出され、それぞれ素晴らしく美味。それだけでも来た甲斐があるほどだ。



サポーターも、
ど迫力のコロンビア



人気の空港無料「ホテル」



イエロー1色のグッズ店



街の果物屋